

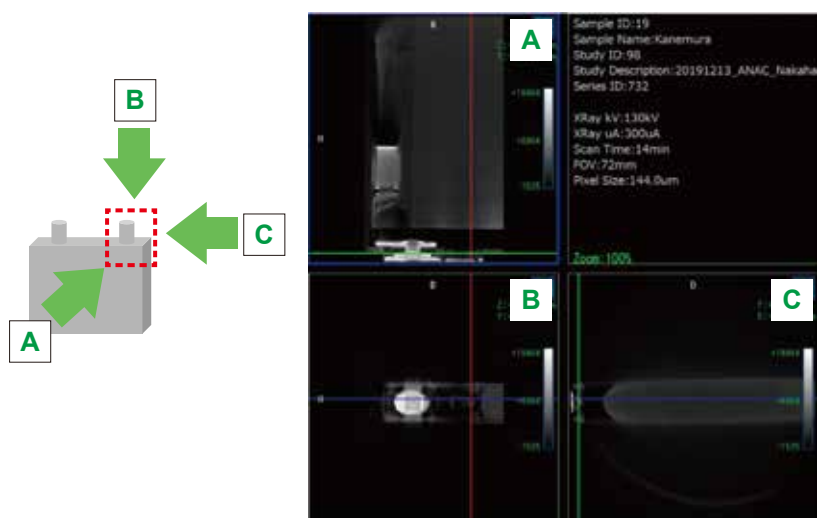
# 二次電池の内部観察 —X線CT法(大型試料仕様)—

大型試料仕様の測定では、ワーキングサイズ（測定装置に入れられる試料サイズ上限）：70mmφ×90mm、観察エリアサイズ（3D測定できるエリアサイズ上限）：70mmφ×35mm程度まで観測でき、ピクセル分解能は5μm/voxel～144μm/voxelとなる。  
電子デバイスを非破壊で観察可能であり、電池積層構造、成形品のボイドなど成形不良の解析に有効である。

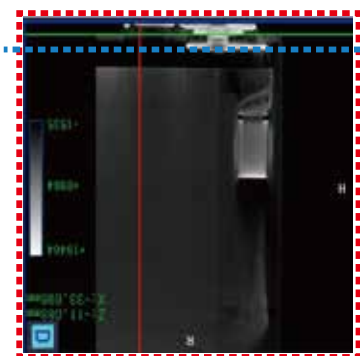
## 分析例 セル解体前安全性確保のための観察

X-ray CT Observation for the Safe Disassembly of Cell

試料：車載用リチウムイオン二次電池  
測定条件：ピクセル分解能：144μm/voxel



電極に接触しない  
箇所を外缶の  
切断位置とする

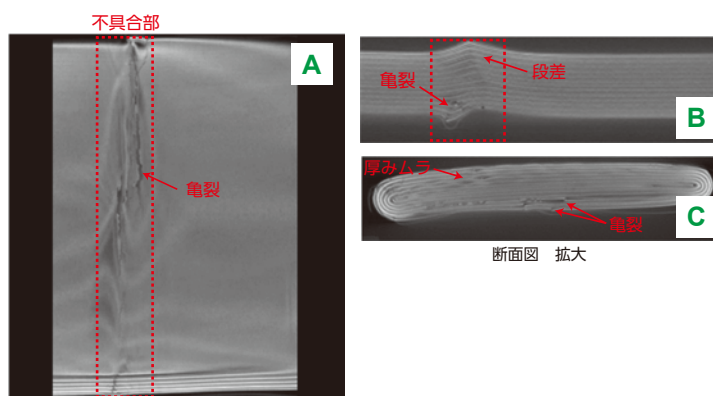
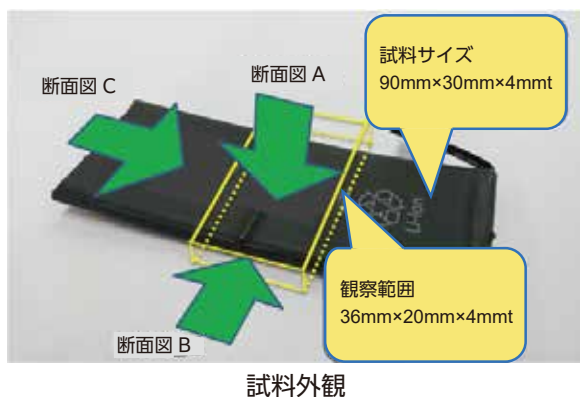


安全性を確保した  
切断箇所の設定が可能

## 分析例 使用済みリチウムイオン二次電池の観察

X-ray CT Observation of Deterioration Cell

試料：スマートフォン用リチウムイオン二次電池  
測定条件：ピクセル分解能：144μm/voxel  
観察範囲：36mm×20mm×4mm



- ・ X線CTにより電極の層状構造を確認
- ・ 観察方向A：亀裂を含む不具合部はセルの横幅全域に存在
- ・ 観察方向B：亀裂に加え、電極の段差も存在
- ・ 観察方向C：電極間で厚みムラが存在

